

来週の「売り物記事」はこれ



2018年9月28日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

若者たち支える元暴走族総長

少年専門の更生保護施設を営む

9月30日(日)



かつて炭鉱で栄えた福岡県田川市に、全国で2カ所しかない少年専門の更生保護施設があります。

運営するのは、自身も元不良少年で、暴走族の総長にまでなった工藤良さん(41)。家族や周囲の支えで立ち直った工藤さんの更生保護活動は10年目に入りました。前身のボランティア団体時代を含め200人以上の少年少女を支援してきた、その波乱



の半生を追います。

筆者は西部報道部の宮崎隆記者です。

はたらくα 現場、再び ローソン商品本部長 藤井均さん

くらしナビ面 10月1日(月)

会社の役員らが自社の最前線で汗を流す姿を記者の目で切り取るルポ「現場、再び」がスタートします。初回は、コンビニエンスストア大手「ローソン」の上級執行役員で商品本部長の藤井均さん(57)が登場します。

店舗数が全国で約5万8000に達し、競争が激化するコンビニ業界。34年ぶりの販売の現場で、藤井さんが見て、感じたことは――。

同性との交際公表——勝間和代さんの思い

社会変える「当事者可視化」

夕刊特集ワイド 同1日(月)

今春に同性との交際を公表した経済評論家の勝間和代さん(49)が、性的少数者(LGBTなど)に関する発言を続けています。欧米などと比べ、日本では根強い偏見から周囲に隠している当事者が多く、著名人のカミングアウトは驚きを持って受け取られました。

その後も政治家らによる差別発言や、それを擁護する雑誌のキャンペーンが続きましたが、勝間さんの姿に勇気付けられている当事者もいます。

「私の願いは、全ての人々が偏見や無意識な差別に遭わずにカミングアウトできること」「日本のすべてのLGBT当事者が、安心して過ごせる社会を望みます」と勝間さんは訴えます。

ノーベル賞ウィーク

同2日(火)から

研究や活動などで人類に貢献した人々をたたえるノーベル賞が発表されます。自然科学の3賞では、2016年に大隅良典・東京工科大学名誉教授が医学生理学賞を受けています。

発表日程は、1日=医学生理学賞▽2日=物理学賞▽3日=化学賞▽5日=平和賞で、日本時間の夕方に受賞者が判明します。文学賞は、今年の受賞者発表が見送られました。

アジアパラの有力選手紹介

6日にジャカルタで開幕

「月刊パラリンピック」面 同2日（火）

4年に1度のアジア最大の障害者スポーツイベント「ジャカルタ・アジアパラ大会」が6日に開幕します。

今月の「月刊パラリンピック」面は、大会に出場する日本の有力選手たちを特集。車椅子陸上（陸上座）界のエース・佐藤友祈選手、バドミントンの山崎悠麻選手、今年のボッチャ世界選手権で銀メダルを獲得した日本代表チーム、それぞれのアジアパラへの意気込みなどを紹介します。

山は博物館 それは戦時下だった 木曾駒ヶ岳

環境面 同3日（水）

毎月1回掲載の「山は博物館 それは戦時下だった」。3日掲載の今回は、長野県の木曾駒ヶ岳を取り上げます。

陸軍戸山学校が1943年8月、大規模な山岳演習を実施しました。登山ルート開拓のため、森を切り開き、岩場を爆破。駄馬を連れ、重い大砲を分解して担ぎ上げたというすさまじいものでした。訓練もさることながら、国威発揚も目的だったようです。

がん大国白書 第6部

医療・福祉面 同3日（水）

10月から月1回連載「がん大国白書——その日に備えて」が始まります。国民の2人に1人ががんになると言われる時代。しかしがんという病気そのものや治療に関する知識は国民の大多数に共有されていません。

がんとがん治療を取り巻く常識はどのようになっているのか。第1回は、現在のがん治療の基本的な考え方である「科学的根拠に基づく医療」や「標準治療」について、医師ら専門家を取材しました。

親ありて プロ野球・福岡ソフトバンクホークス

内川聖一内野手の父・一寛さん

くらしナビ面 同3日（水）、4日（木）

今年5月にプロ野球史上51人目となる通算2000本安打を達成した福岡ソフトバンクホークスの内川聖一内野手（36）。

高校時代は父の一寛さん（61）が監督を務める大分工業高校の野球部に入部。父と子ではなく、監督と選手として過ごした3年間は野球人生の原点です。「お父さんのところで野球をやりたい」と言ってくれた息子との歩みを一寛さんに聞きました。